

2. 荒川地域

川と花

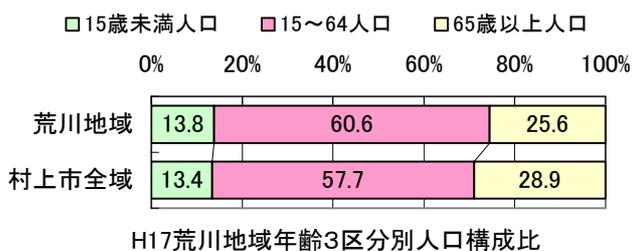
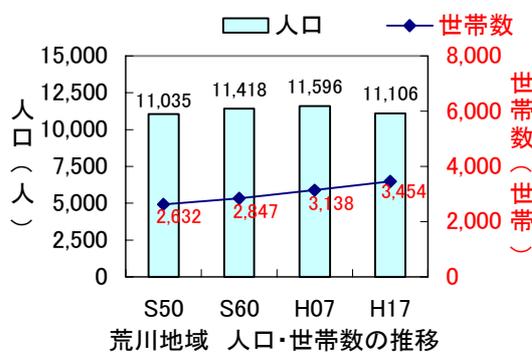


【荒川地域の位置】



【地域の現状】

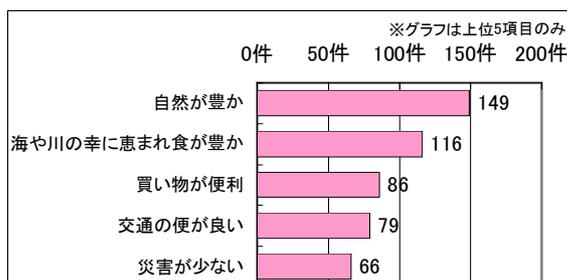
- ・村上市 端、旧荒川町の区域
- ・山林地が約 50%、農地が約 39%、宅地が約 8%
- ・人口動態は ばい、世帯数は増加傾向
- ・65 歳以上高齢者比率は 25.6%で市平均より低い



【アンケート結果】

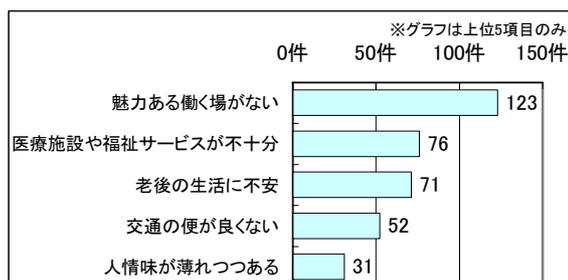
・村上市が住みやすいと感じる理由

2. 荒川地域



・村上市が住みにくいとを感じる理由

2. 荒川地域



荒川地域の課題

【荒川をはじめとした貴重な自然の保全・活用】

地域のシンボルである清流荒川の保全と有効な利活用
高坪山や福祉の森など山地・丘陵地の景観の保全と有効活用
優良農地や農村の保全と持続的発展

【市街化の適切なコントロールと市街地の生活利便の向上】

市街地内未利用地の解消と郊外開発の適切なコントロール
駅・商業・行政・医療など都市機能の連携・充実
高速 I C、国道 7 号・113 号の広域交通網の利便性を活かしたまちづくり

【安全・快適・便利な居住環境の整備】

公園・広場など憩いの場、下水道の水洗化など身近な生活基盤の整備
市街地や集落内の狭小道路解消など安全快適な生活環境づくり
空き地・空き家・空き施設の有効活用とコミュニティ強化・交流人口拡大

荒川地域の将来目標

「川」と「花」の文化

清流荒川を示す「川」と地域の特徴であるユリやクロッカスなどを栽培してきた歴史・経験を踏まえ、「花」をふるさとの宝として、これからの地域づくりに活かしていきます。

1 高坪山や清流荒川が育む豊かな自然のまち

清流荒川が運ぶ肥沃な土地に恵まれ発展してきた歴史を背景に、今後とも山・川・田園などの故郷の自然を保全活用し、まちと自然が互いに共存しながら清流のイメージにふさわしい美しいまちを引き継いでいく地域を目指します。

2 村上の副次拠点としての便利でにぎわいのあるまち

荒川市街地は、村上市街地の副次的機能を有する都市拠点として、買物・行政・医療・福祉・公共交通など生活サービス機能の充実と都市基盤整備を進め、優良農地に囲まれた、誰もが安心して元気に暮らせる緑豊かなコンパクトなまちを目指します。

3 生まれ育ったふるさとへ帰りたくなる魅力のまち

古くからの交通の要衝であり市内で最も早く高速道路が開通した地域であること、また日本一の生産量を誇るクロッカスなど、荒川地域の強みを最大限活用しながら住民同士や外部との交流を促進するとともに、新しい魅力を創造し若者が住み続け、また帰って来たいようなまちを目指します。

荒川地域の整備方針

1 「高坪山や清流荒川が育む豊かな自然のまち」の方針

【自然環境の保全】

ふるさと荒川の代表的な資源である高坪山、荒川、田園風景などの自然的景観は、地域の貴重な財産として次世代への引き継ぎを図ります。荒川をはじめとした水辺空間は、多様な生物の生息空間であるとともに、市民にうるおいや安らぎを提供してくれます。今後、市民や来訪者がレジャーや釣り、散策などを楽しめる交流空間として、美しい水と緑の河川空間の保全を図ります。



市街地を取り囲むように広がる農用地については、安全でおいしい米や野菜の供給基地として、また防災やCO₂吸収など環境負荷低減要素として、その機能維持を図ります。

【自然資源の利活用】

高坪山の自然の保全を基本に、自然体験型レクリエーション地としての整備を目指します。荒川河川敷では既存のゴルフ場とともに、美しく安らぎのある親水空間としての整備と、ふるさとの川を身近に感じられる環境づくりを目指します。



当地域特有の「風」を利用した風力発電や休耕田を利用したソーラー発電など、環境負荷の少ない新たなエネルギー供給施設の整備を目指します。

2 「村上の副次拠点としての便利でにぎわいのあるまち」の方針

【市街地内都市基盤整備】

市街地周辺の将来の交通需要を想定し、必要に応じた計画的な道路整備を目指します。なお、既存の都市計画道路においても必要性や実現性の低いものに関しては変更・廃止も視野に入れた検討を図ります。

下水道整備地区についてはつなぎ込みなど、快適な生活環境の創出を目指します。国道7号沿道は、既存商業や公共施設などが立地する商業業務施設用地としての利便増進とともに、沿道緑化などにより快適性の向上を目指します。

【市街地内都市的土地利用の推進】

市街地内に残存する未利用地については、今後発生する宅地開発などの受け皿と

して優先的に誘導し、その解消を目指します。

J R坂町駅周辺は、交通結節点として公共交通機関の乗継ぎ機能の改善を目指すとともに、近隣に集積する店舗、飲食店、宿泊施設と居住機能が一体となった、利便性の高い地区として整備を目指します。

県立坂町病院西側の地区は、保育園、医療福祉施設に近く、さらに幹線道路である国道 7 号・113 号へのアクセスも可能で便利な住宅地として

の基盤整備を目指し、残存農地の解消と若者定着・Uターン者の受け皿としての整備を目指します。

沢見工業団地と中条工業高校跡については、工業を中心とした土地利用を図ります。



3 「生まれ育ったふるさとへ帰りたくなる魅力のまち」の方針

【交流を拡大する環境整備】

まちと農業を連携させ、地域内で採れる安全で新鮮な農産物を販売し、かつ来訪者と交流できる空間の整備を目指します。また、雇用の場を確保するため、農産物を加工し販売できるような施設の整備を目指します。

グリーンパークあらかわ総合運動公園は、良好な自然の中で子どもから高齢者まで、気軽に集いスポーツを楽しめるよう、その機能充実とともにアクセス改善など利便性向上を目指します。



地域の児童の遊び場や高齢者の交流の場として、公民館など既存の公共施設の開放を目指します。また、使われていない施設を利用して、店舗や飲食店、高齢者や地域住民が利用する施設の誘導を目指します。

烏川沿いなど市街地の散歩道と利用される場所については、都市の景観形成や健康増進など、それぞれが持つ特徴や機能の維持増進を図った緑道を目指します。

「あらかわ大祭」、「獅子踊り」などの地域のまつり行事の保全とこれらの交流資源としての活用を目指します。

J R坂町駅には、鉄道交通の要衝としての象徴的な転車台（方向変換施設）などが残っているので、その保存や活用を含めた景観の取り組みを目指します。

国道 7 号沿道と荒川胎内 I C 周辺については、日東道からの流入利用者をはじめ、荒川地域と国道 113 号沿線方面からの利用者を前提に、販売・情報発信・休憩機能など、地域振興に資する交流拠点の整備を目指します。

【道路交通環境の整備】

国道 7 号は、村上市街地や胎内・新発田市方面への通勤や買物など日常の重要な

生活幹線でもあることから、渋滞箇所の解消と、円滑な交通の流れの実現を目指します。

国道や県道など交通量の多い道路沿道には地域の特産品であるユリやクロッカスなどの花を植え、フラワーロードとして整備を目指します。

集落部に住む交通手段を持たない住民が、容易に市街地の都市サービスを楽しめるよう、新たな公共交通の仕組みを検討し地域の移動手段の確保を図ります。

【身近な生活基盤整備】

市街地や集落内で日常生活に大きな支障を与えている生活道路については、地域の声を聞きながら改善を目指します。

既存の身近な公園の機能充実とともに、住民が気軽に集い憩えるような空間整備も視野に入れ、住民がその使い方の検討や維持管理に直接関わっていただけるような仕組みづくりを目指します。

若者の流出を防ぎ、また一度他地域に出た出身者がUターンする際の就業の場を確保するため、新たなコミュニティビジネスの創出や魅力ある企業の誘致を目指します。

まつり行事や集落で行う協働作業が効率的に継続され、地域コミュニティが維持されるような仕組みづくりを目指します。



【自然災害への対応】

地域内の急傾斜地や土砂崩壊危険地区など、危険箇所の防災対策を目指します。

荒川地域 整備方針図

【都市基盤の整備】

- 就業の場の確保、コミュニティビジネスの創出
- 沢見工業団地・中条工業高校跡の工業を中心とした土地利用

【道路・交通環境の整備】

- 幹線道路沿道などの緑化（地域の花などの活用）
- 新たな公共交通の仕組みの検討・地域の移動手段の確保

【集落機能の維持】

- 農作物加工・販売・交流施設の整備検討
- 地域の交流の場としての既存施設や空き施設の活用
- 地域の行事の保全と交流資源としての活用

【河川環境】

- 河川空間の保全
- 荒川河川敷の親水空間整備

【都市基盤の整備】

- 道路の必要に応じた計画的な整備
- 下水道のつなぎ込み
- 国道 7 号沿道の商業業務地としての利便増進・沿道緑化、IC 周辺や国道 7 号沿道の交流空間整備
- JR 坂町駅に残存する貴重な施設の保全活用

【道路・交通環境の整備】

- 交通渋滞の解消（国道 7 号）

【市街地内の整備】

- 市街地内未利用地の優先的開発誘導
- JR 坂町駅周辺の一体的利便性向上
- 坂町病院西側の利便性の高い専用住宅地としての整備
- 烏川沿いの交流空間づくり

【日常生活の利便増進】

- 日常生活に支障をきたす生活道路の改善
- 既存公園の機能充実・住民主体の維持管理方策検討

【都市基盤の整備】

- グリーンパークあらかわ総合運動公園へのアクセス改善

【都市基盤の整備】

- 高坪山の保全・レクリエーション機能充実

【自然災害への対応】

- 急傾斜地や土砂崩壊危険地など危険箇所の防災対策

【自然環境の保全・活用】

- 自然的景観の保全・次世代への継承
- 農用地の保全・機能維持
- 風を利用したエネルギー供給施設・ソーラー発電施設整備検討

凡 例

- 用途地域
- 既存集落
- 水面
- 山林地
- 農用地
- 基幹集落
- 交通拠点
- 観光・交流拠点
- 産業拠点
- 行政区
- 都市計画区域
- 高速道路
- 国道
- その他道路
- 鉄道

0 500m 1000m 2500m